

## 令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録

校 名 大阪府立八尾支援学校  
 校 長 名 古川 綾子  
 准校長名 坂田 享介

開催日時	令和7年12月16日(火) 10:00～11:40
開催場所	本校 図書室
出席者数	(委員)6名 (学校)10名 (傍聴者)1名
資料	第2回次第、名簿、令和7年度学校教育自己診断結果について、令和8年度使用教科図書の選定、2学期授業アンケートの結果について

## 議題等(次第順)

○校長あいさつ

○協議1 令和7年度学校教育自己診断結果について

○報告1 令和8年度使用教科用図書の選定

2 2学期 授業アンケートの結果について

3 学部間交流・学校間交流について

○質疑応答

○准校長あいさつ

## 校長挨拶(古川校長)

(1) 2学期の振り返り

学習発表会を無事開催できた。学年ごとに様々な経験を積めるように取り組み内容を見直して実施した。

(2) 時間の区切り(校時)の変更について

高等部の教員数減→子どもたちのニーズに合った教育を果たしにくい現状があった。

来年度は児童生徒数がさらに増加の見込み。特別教室は効率的に運用していきたい。

(3) 校舎の老朽化

事務職員は教育委員会や業者対応に追われている。通学バスとデイサービス車輛増加を見越し、校舎の南側の整備が進んでいる。本校 PTA 石田原会長が府 PTA 全体の副会長として老朽化を府に訴えてくださっている。

## 協議

【協議1 令和7年度学校教育自己診断結果について】

(生徒)

「いじめで困ったら先生は助けてくれますか」の否定意見が7%だがいじめアンケートの案件はない。

「がんばったことを褒めてくれますか」の項目が大幅増した。これからも寄り添って傾聴していきたい。

(保護者)

年度初めに一人ひとりの目標の提示を行った。また、授業参観でキャリア教育の観点を取り入れた。防災教育、安全教育は今後も実際の災害をイメージしたものになるようにしたい。

(教職員)

すべての項目で達成基準に到達した。組織マネジメントは全体的に数値が向上した。特に【地域連携】や【児童生徒会活動】についての項目が向上。地域支援や地域との交流活動、挨拶運動、学部間交流、ブログの発信などを積極的に行った結果であると考えられる。

## (質疑応答)

- ① 長欠の生徒は何人くらいいるか、どのようにフォローしているか。→各学部1～5名程度。定期的な電話連絡や家庭訪問でフォローしている。長欠の理由は様々。障がい特性、家庭の環境。背景に応じて担任が対応している。
- ② 校舎の老朽化、具体的には建て替えスケジュールは決まっているか。→教育庁も老朽化の現状は関係機関で共有できているが、建て替えをすぐに進めるのは難しい。校舎全体の大規模改修は70年以上経っている学校の優先順位が高い。
- ③ 企業実習・福祉サービスの取り組みと課題を具体的に教えてほしい。→高等部は企業実習の数を増やした(高1から実習・高2で3回実習)。企業・事業所のマッチング、電車/自転車通勤の難しさが課題である。

## (意見)

肯定意見が増えており、先生方のがんばりが認められていると思う。安心安全に繋がるので積極的に取り組んでほしい。分析した結果を新年度に引き継いでいるか。先生方が変わるので、年度初めにも周知できればよいのではと思う。

## 報告

## 【報告1 令和8年度使用教科用図書の選定】

・第1回では今年度使用する教科用図書について報告した。今回は次年度採択教科書を報告する。採択できる教科書は文科省や府から「被りなく児童生徒の手元に渡るように」指示がある。夏頃から担当が選定、児童生徒に合ったものを議論してきた。

## 【報告2 2学期 授業アンケートの結果について】

2学期は平日開催。1学期は土曜開催。回答率は1学期比で参加率・回収率ともに減少した。昨年の3学期開催と比較すると参加率・回収率は増加している。

## (小学部)

大幅に否定的意見が下がっている。「思わない」の項目は0になった。先生方が普段から褒めてくれていることを保護者の方にも見ていただけたのではないかな。6年生が修学旅行の前の事前学習を見ていただいたのもよかった。

## (中学部)

最も高い項目をいただいたのは「先生方ががんばりを認めている」だった。授業中に質問や発表しやすい環境については今後も改善の余地があることが分かった。より効果的な取り組みができるように校内で工夫していく。

## (高等部)

・最も高い項目は「わかりやすい教材や教具」だった。卒業後の生活に直結する力の評価をいただいた。生徒が主体的に行動できることは将来の自立に繋がる。これからも授業と卒業後の生活を結びつけていく。

## 【報告3 学部間交流・学校間交流について】

## ～交流動画の視聴～

## (小学部)

・中学部、高等部とあそびの交流をしている。清掃は中高学部の生徒が児童に教えてくれたりしている。近隣小学校や八尾しょうとく園との定期的な交流、教員が伺い、出前授業などの活動を行っている。

## (中学部)

・キャリアコーディネーターの活動を通して全体的に交流学习が定着してきた。お互いに良い学びに繋がり、充実した時間を過ごせていると感じる。子どもたちがいきいきとして教えあったりすることで学びや経験につながっている。

## (高等部)

・山本高校との交流を年間3回行っている。学部間交流は生徒主体で教える機会。自信のつく活動になっている。次年度も交流の機会を通して山本高校との繋がりを強めていきたい。

## (意見)

交流の話をとても素敵だと思って聞かせてもらった。先輩の姿を見るのは憧れになる。学校内外での交流の様子を実際に動画で見て、インクルージョンの先駆けになるのではと思った。先生方の準備は大変だったと思うが、ぜひ続けてほしい。

## 質疑および回答

- ① アンケートはすべてマチコミでの回収になった。今年度からマチコミの配信数がとても多くなった。日中は忙しいので溜まってしまう。漏れが生じるのではないかと。
- ② 先生方が前向きに頑張っているんだと今回感じた。お子さんに還元される大事なこと。教員自身が学校運営に携わっていることをどう感じてもらえるかを上手く補えている。
- ③ アンケートは全体的に肯定的な意見が多かった。頑張っていることが評価されている一方、「思わない」の数字が一定数あるのは、中学部段階の難しさや支援学校としての難しさがあるのかもしれない。生徒は自分の気持ちが芽生え始めているので、保護者も教員も、子どもの実態把握を大切にしてほしい。
- ④ アンケートを数字で回収すると数値の変化はある。保護者のニーズを捉えながら日々教育活動に取り組んでいることがよく分かった。
- ⑤ インクルーシブ先行になると難しくなる。楽しく交流することが世代、地域を超えるきっかけになる。児童生徒のその後の人生が豊かになるのではないかと考えた。八尾市では放課後等デイサービスの利用数がとても増えている。施設整備も生徒増の見込みで動いていかないといけない。個別で一人ひとり向き合っていることが分かった。
- ⑥ 地震など災害の報道が多く取り上げられている。引き続き防災教育に取り組んでほしい。

## 准校長あいさつ

・委員の方々からのご意見をとても嬉しく感じている。いただいたご意見を教員に伝えたい。  
また今後の取り組みに活かしていきたいと思った。今後も連携を強めていきたい。

## 次回の会議日程

令和8年2月16日(月)